

はじめに

この度、令和2年度(2020年度)の業務内容および調査研究の成果を「熊本市環境総合センター年報(第28号)」として取りまとめました。ご高覧いただき、ご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

当センターは、本市の保健衛生行政や環境行政を科学的・技術的に支える中核機関として様々な行政検査や調査研究を実施しており、環境学習の拠点としての機能も有しております。

令和元年度の終わりに発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の行政検査や環境学習への取り組みについては休止せざるを得ない状況になりました。一方で新型コロナウイルス感染症の検査に関しては、ウイルス検査担当の微生物班だけでなくセンター全体、さらにはセンター外からの職員の応援も得ながら1年間で例年のおよそ10倍以上にあたる12,000件を超える検査に対応しました。

現在では変異株が続々と確認され、変異株検査の拡充や次世代シーケンサー(NGS)等を活用した解析など新たな検査技術の習得が求められています。当センターでも国や他自治体の研究機関との連携強化を図りながら、速やかに対応していく所存です。

今後とも熊本市民が安全・安心に暮らすことができる生活環境を守るため、正確かつ迅速に検査業務を遂行していくとともに、食品の安全性確保や環境汚染に関する検査対応、また新しい生活様式を取り入れた環境学習の実施などを検討してまいりたいと考えておりますので、引き続きのご支援をお願いいたします。

令和3年(2021年)11月

熊本市環境総合センター所長 近藤 芳樹